

第4期岡山市教育振興基本計画（素案）

目 次

1	計画策定にあたって	p 1
2	岡山市の教育理念	p 2
3	教育を取り巻く社会・経済情勢	p 3
4	これからの教育	
	（1）新たな価値を創造できる人材の育成	p 4
	（2）多様な子どもへの対応	p 5
5	岡山市の状況	
	（1）子どもの状況について	p 6
	（2）教育環境について	p 10
6	政策の柱・施策	p 11
	（1）柱1 持続的な社会の発展に向けて学び続ける人材の育成	p 12
	（2）柱2 誰一人取り残されない共生社会の実現に向けた教育の推進	p 13
	（3）柱3 地域や家庭で共に学び支えあう社会の実現に向けた教育の推進	p 14
	（4）柱4 計画の実効性を高める基盤整備及び教育DXの推進	p 15
7	計画の推進と進行管理	
	（1）計画の推進	p 17
	（2）計画の進行管理	p 19

1 計画策定にあたって

(1) 策定の趣旨

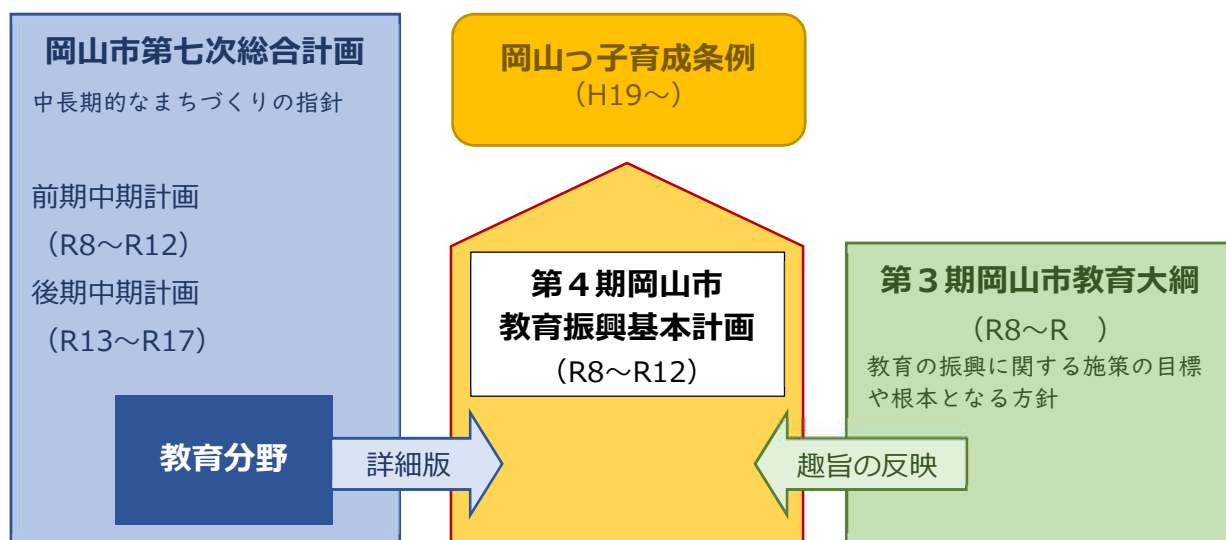
本計画は、教育基本法第十七条第2項に規定される「地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として、岡山市市民協働による自立する子どもの育成を推進する条例（以下、「岡山っ子育て条例」という。）第8条に掲げた市の責務を計画的かつ効果的に果たすために策定します。

(2) 計画の位置付け

本計画は、岡山市の中長期的なまちづくりの指針となる岡山市第七次総合計画前期中期計画の分野別計画として位置付けています。

また、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第一条第3項に規定されている「地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」である第3期岡山市教育大綱（仮称）に則した教育行政の運営を行うため、その趣旨を本計画の内容及び各施策の事業に反映させています。

さらに、岡山市の子育てに関する「岡山市こども計画」との整合を図ります。



(3) 計画期間

令和8（2026）年度から令和12（2030）年度までの5年間とします。

(4) 計画の範囲

岡山っ子育て条例を踏まえ、「学校教育（就学前を含む）」「家庭教育」を主な対象とし、「社会教育」については、主に子どもの教育に関する教育施策を対象範囲とします。

(5) その他

本計画では、義務教育学校の前期課程を「小学校」に、後期課程を「中学校」に含んで記載します。

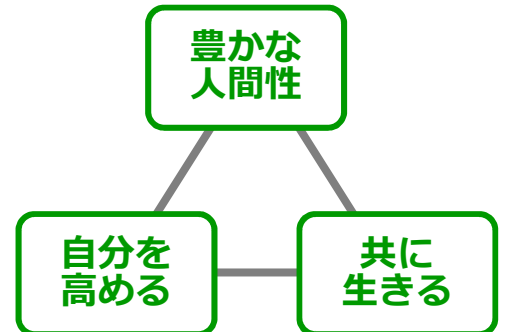
2 岡山市の教育理念

市民協働による 「自立に向かって成長する子ども」の育成

「自立に向かって成長する子ども」とは、「豊かな人間性」を身に付け、「自分を高める」とともに、「共に生きる」ことができるように自分自身を確立していく子どものことです。

「自立に向かって成長する子ども」を育成するため、家庭、学校園、地域社会、事業者、市がそれぞれの果たすべき責任と役割を自覚し、相互の信頼関係の下、支え合い、協力していきます。

自立に向かって成長する子ども



人権尊重の理念に基づく教育の推進

教育の基盤は、人権尊重が徹底している環境です。その中で、一人一人が大切にされていることを実感できるようにすることで、自分とともに他者を大切にしようとする態度を育むことができます。

子どもたち一人一人が活躍し、また、豊かで安心して暮らすことができる社会を実現していくためには、人権感覚を身に付け、社会の一員として主体的に自分の役割を果たすことができる子どもを育てることが重要です。

岡山市では、一人一人の生命と尊厳が守られ、それぞれの個性、能力を最大限に発揮できる家庭、学校園、地域社会の実現を目指します。

なお、岡山っ子育て条例においても、基本理念として「すべての子どもは、子どもとしての権利及び社会の一員としての心身の発達に応じた責任があり、また性別、国籍、障害等にかかわらず、一人の人間として尊重されます」と規定しています。

3 教育を取り巻く社会・経済情勢

グローバル化や気候変動などの地球環境問題、少子化・人口減少、格差の固定化などの社会課題が生じている中、国の第4期教育振興基本計画（令和5年6月16日閣議決定）では、2040年以降の社会を見据えた教育政策におけるコンセプトとも言うべき総合的な基本方針として「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイング（Well-being）の向上」を掲げています。

特に、少子化・人口減少が著しい我が国においては、一人一人の生産性向上と多様な人材の社会参画を促進することが不可欠です。そのため、一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、「持続可能な社会の創り手」になることを目指すことが重要です。

また、経済先進諸国においては、経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがい捉える「ウェルビーイング」の考え方が重視されてきている上、社会の多様化が一層進展しています。そうした中であっても、障害の有無や年齢、文化的・言語的背景、家庭環境などにかかわらず、誰一人取り残されることなく、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会の実現を目指し、社会的包摂を推進する必要があります。

これらの相互循環的な実現に向けた取組が進められるよう教育政策を講じていくことが必要です。

持続可能な社会の 創り手の育成

- 将来の予測が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育てる
- 主体性、リーダーシップ、創造力、課題設定・解決能力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

日本社会に根差した ウェルビーイングの向上

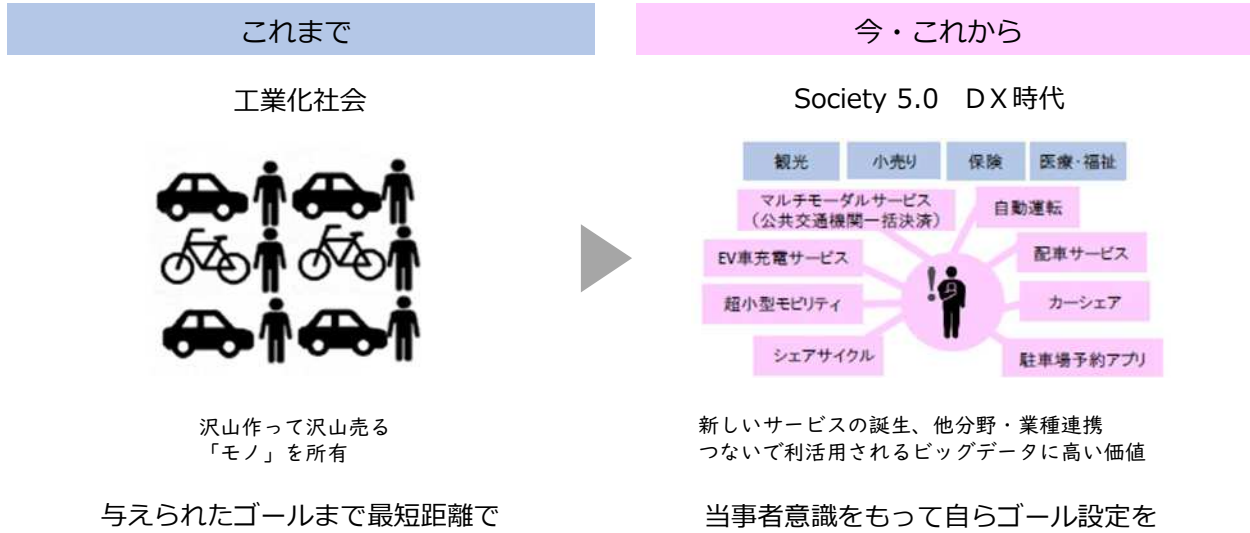
- 多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてウェルビーイングを向上
- 幸福感、学校や地域でのつながり、協働性、利他性、多様性への理解、社会貢献意識、自己肯定感、自己実現等を調和的・一体的に育む

国「第4期教育振興基本計画」（2023）

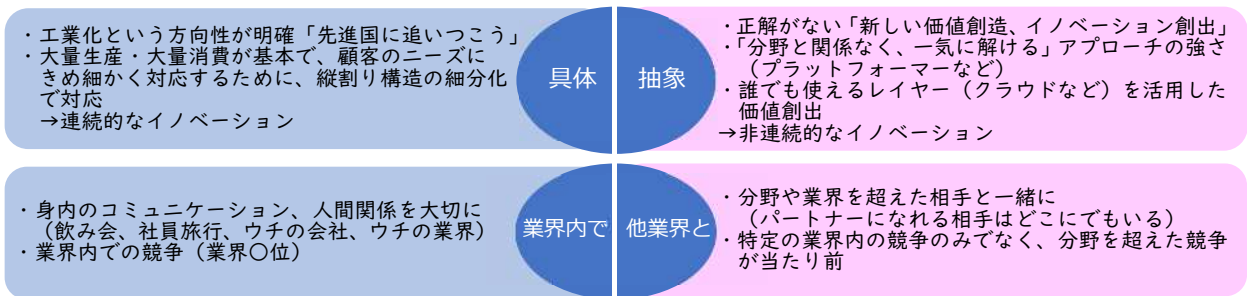
4 これからの教育

(1) 新たな価値を創造できる人材の育成

経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の時代（Society 5.0）において、人としての強みを生かしていくには、これまでの工業化社会とは違い、一人一人が当事者意識をもち、他者と協働しながら新たな価値を生み出すことが求められます。



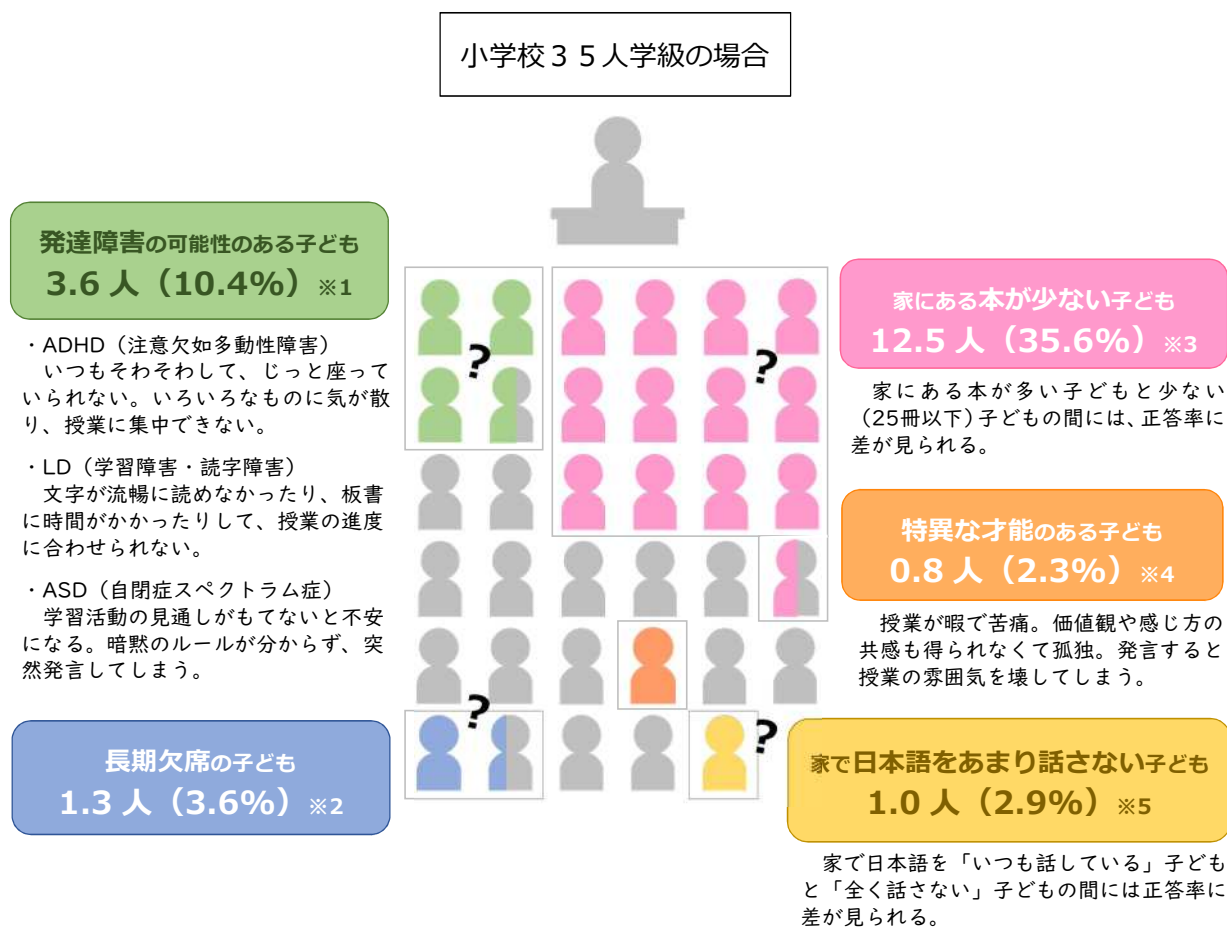
思考・発想



内閣府 総合科学技術・イノベーション会議
「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」（2022）を一部改変

(2) 多様な子どもへの対応

学級には、発達障害や特異な才能のある子ども、長期欠席の子ども、家で日本語を話す頻度や本が少ない子どもが存在し、すべての子どもの可能性を最大限引き出す教育が求められています。



内閣府 総合科学技術・イノベーション会議
「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」(2022)を改変

<注釈>

- ※1 文部科学省「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」(2022)において、「学習面、各行動面で著しい困難を示す」とされた児童の割合
- ※2 文部科学省「令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」(2023)において、病気や不登校により年間30日以上欠席した児童の割合
- ※3 文部科学省「令和6年度 全国学力・学習状況調査」(2024)において、家にある本数を「0~10冊」または「11~25冊」と回答した児童の割合
- ※4 日本には定義がないため、IQ130以上を仮定し、知能指数のベルカーブの正規分布をもとに算出。説明は、文部科学省 特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議アンケートをもとに編集
- ※5 文部科学省「令和3年度 全国学力・学習状況調査」(2021)において、家で日本語を「ときどき話す」または「全く話さない」と回答した児童の割合 (以後、質問項目なし)

5 岡山市の状況

(1) 子どもの状況について

① 学力について

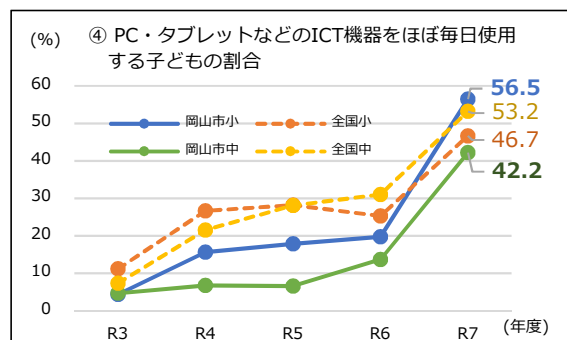
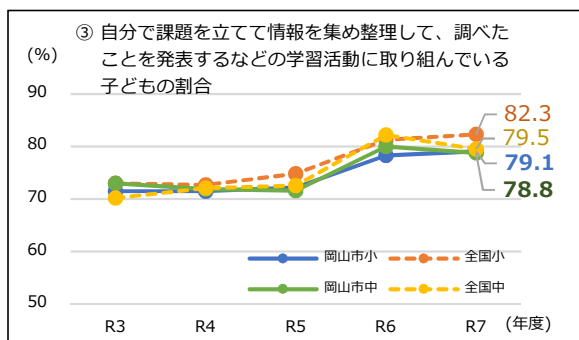
- 岡山市では、中学校区の学校園が子どもの学びに係る課題を共有して取り組む保育・授業研究や、全国学力・学習状況調査と岡山市独自の学力調査（岡山市学力アセス）の結果をもとにした授業改善の取組を進めてきました。その結果、第1期岡山市教育大綱の策定時に喫緊の課題であった学力は、令和元年度に「全国平均レベル以上の学力」という目標を達成し、6年連続で維持することができています。同様に課題であった記述式問題の正答率や無解答率も概ね全国平均レベルまで向上しています。
- 一方で、「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる子どもの割合」や「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている子どもの割合」が全国平均を下回っています。学んだことが実生活や自分の将来につながっていくことが意識できるような教育活動を充実させる必要があります。
- また、令和3年度に配備が完了した学習者用端末の活用率は、全国平均を下回る状況が続いていましたが、令和6年度に市共通の「授業支援ソフト」及び「デジタルAIドリル」を導入したことをきっかけに大きく向上しました。今後は、子どもの情報活用能力の向上を目指し、活用率の向上にとどまらず、効果的な活用の推進に取り組む必要があります。

① 偏差値

		R3	R4	R5	R6	R7
小学校	国語	50	51	50	50	50
	算数	50	50	50	50	50
中学校	国語	50	50	50	50	50
	数学	50	50	51	50	50

② 記述式問題の正答率（対全国比）

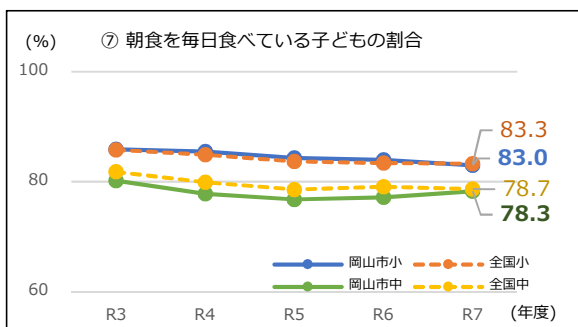
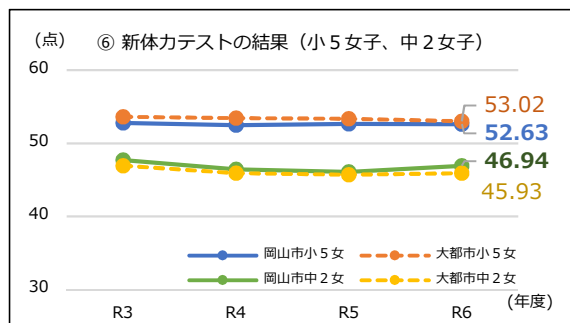
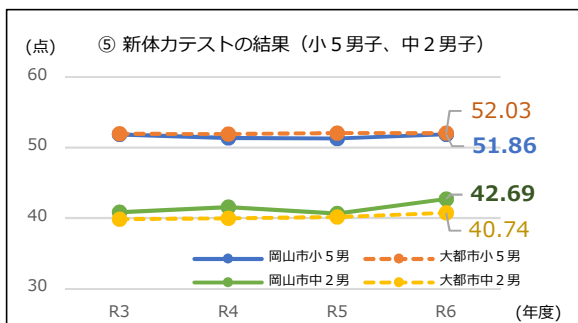
	R3	R4	R5	R6	R7
小学校	1.01	1.03	1.01	1.00	1.00
中学校	0.98	0.99	1.00	0.99	1.00



①～④は「全国学力・学習状況調査」より

② 体力・健康について

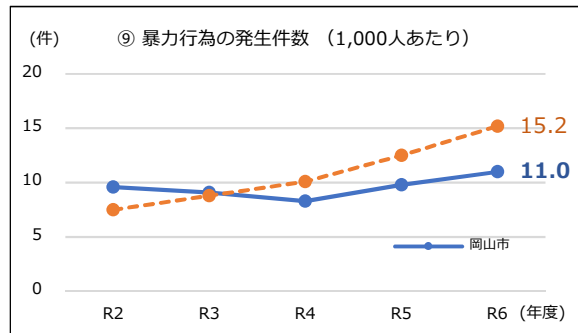
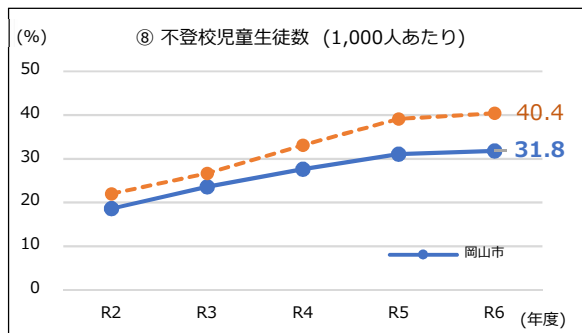
- 運動をする子どもとそうでない子どもの二極化傾向が課題であり、その解決に向け、モデル校の好事例を横展開し、運動習慣の定着に向けた取組を進めてきました。その結果、岡山市の子どもは概ね大都市平均レベルの体力を身に付けています。*大都市とは、政令指定都市+東京23区を指す。
- 子どもや保護者に子ども自身の生活を見直す機会を提供するとともに、食への興味・関心を喚起するために、朝食に関するアンケートの数値などを用いた食育を推進してきました。その結果、朝食を毎日食べる子どもの割合は、概ね全国平均レベルです。



⑤⑥は「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」より
⑦は「全国学力・学習状況調査」より

③ 問題行動等について

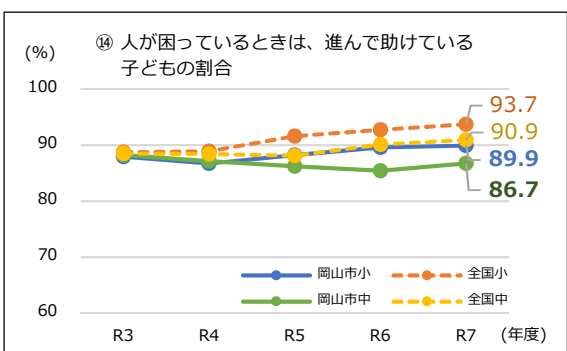
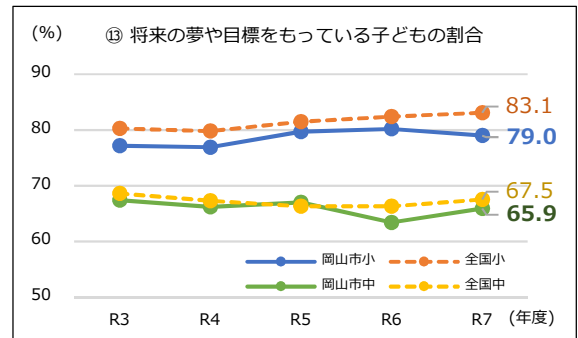
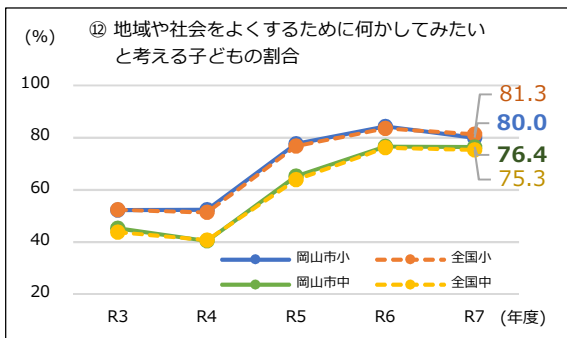
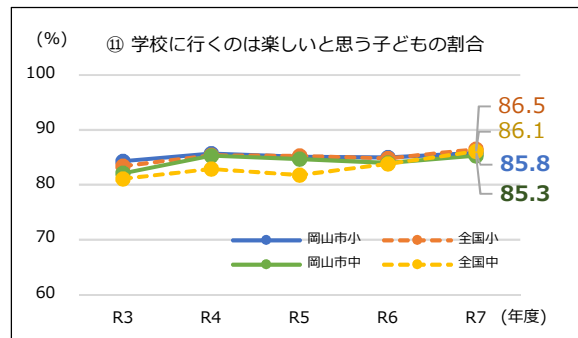
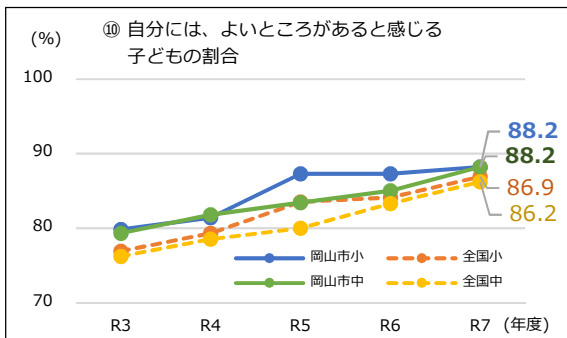
- 不登校児童生徒数、暴力行為の発生件数ともに、第1期岡山市教育大綱の策定時には岡山市の喫緊の課題でした。その解決に向け、前述の質問紙調査のデータを活用した個別に対応する取組や、欠席10日以上で個別の支援について検討する取組を進めた結果、どちらも指定都市の平均値よりも低く抑えることができているものの、不登校児童生徒数は増加傾向にあり、継続した取組が必要です。



⑧⑨は「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より
数値は小・中学校合算

④ 子どもの意識について

- 教員による普段の学校生活での子どもの観察に加え、質問紙調査により、子どもの所属感や満足感、達成感をデータで把握しながら、個別に対応する取組を進めてきました。その結果、全国学力・学習状況調査では、「自分にはよいところがある」と回答した子どもの割合は、小・中学校ともに全国平均を上回っています。
- また、「学校に行くのは楽しい」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した子どもの割合は小・中学校ともに全国平均レベルであるのに対し、「将来の夢や目標をもっている」「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した子どもの割合は、小・中学校ともに全国平均を下回っています。



⑩～⑭は「全国学力・学習状況調査」より

⑤ 子どもの意見について

子どもの意見聴取アンケート

実施： 令和7年2月実施

対象： 岡山市立小学校第5学年～岡山市立中学校第3学年（有効回収数 23,411件）

方法： 学習者用端末を使い、オンラインで回答

学校生活の楽しさについて

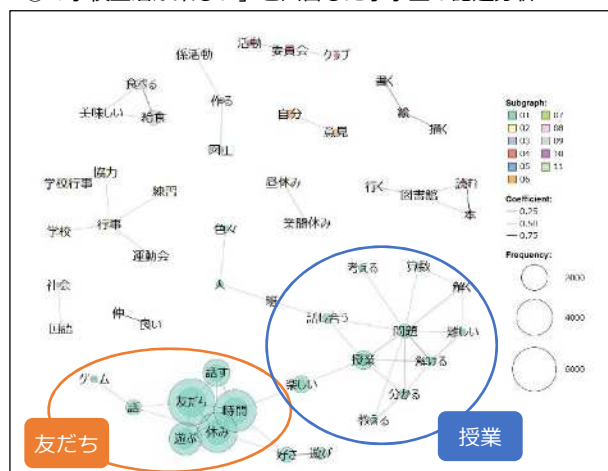
- 学校生活のそれぞれの時間について、子どもが楽しいと感じるのは、上位から「休み時間」「学校行事」「給食時間」でした。子どもは「友だちとの交流」や「自分の興味・関心」がある内容に取り組むときに、充実感を得る傾向が見られます。

- 「あなたは、どのようなことをしているときに、学校生活が楽しいと感じますか」という質問では、多くの子どもが「友だち」と「休み時間」に「遊ぶ」や「話す」と回答しており、友人関係が学校生活の楽しさに最も関係していると考えられます。

また、「授業」というワードが「分かる」や「教える」といった学習行動と関連しており、理解が深まることに楽しさを感じる傾向が見られます。

⑮学校生活で子どもが楽しいと感じる時間	肯定的回答
休み時間	96.7%
学校行事（運動会や体育会、学習発表会や文化祭、修学旅行など）	95.0%
給食時間	92.8%
部活動（入部している中学生のみ回答）	88.4%
授業	79.1%
係活動、委員会活動、生徒会活動	78.7%

⑯「学校生活が楽しい」と回答した小学生の記述分析



- これらのことから、子どもの学校生活における満足感を高めるには、これまでも岡山市が取り組んできた授業づくりと学級集団づくりを一体的に推進することが重要であり、今後もさらに充実していく必要があります。

教員に望むことについて

- どの質問においても、子どもが教員に望む割合が高いことから、教員への期待の高さが表れていると考えられます。

特に、「教員の授業力・指導力」「教員の積極的な関わり」に関する内容の割合が高くなっています。

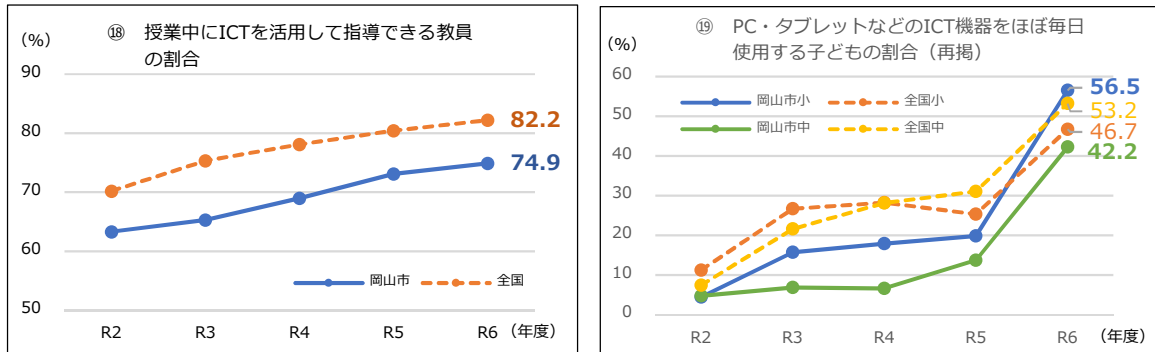
⑰子どもが教員に望むこと	肯定的回答
分かりやすい授業をすること	98.6%
学校行事でいっしょに盛り上がること	96.0%
がんばったことをみとめること	94.8%
「いけないことはいけない」と指導すること	90.1%
勉強や進路について、相談にのること	88.4%
休み時間に一緒に遊んだり、話をしたりすること	84.8%
友だち関係について、悩みや困ったことの相談にのること	71.4%

(2) 教育環境について

① 教員の授業力について

- 授業中に ICT を活用して指導できる教員の割合は、上昇傾向にありますが、全国平均を下回っている状況が続いています。また、ICT の活用が子どもの授業の理解度に好影響を与えていることから、引き続き、教員の ICT 指導力の向上に取り組んでいく必要があります。

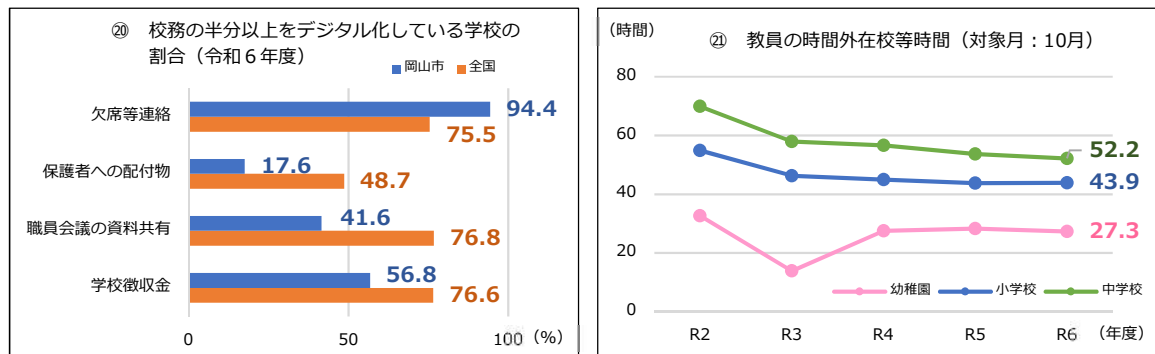
令和 8 年度末に開所予定の岡山市教育センター（仮称）では、参集型、遠隔型などの研修形態に対応した施設、機器を整備し、研修のさらなる充実を図ります。



⑱は「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」、⑲は「全国学力・学習状況調査」より

② 教職員の働き方について

- 教員の時間外在校等時間は、減少してきているものの、校務の半分以上をデジタル化している学校の割合は、多くの項目で全国平均を下回っています。デジタル化を含めた業務改善・改革により一層取り組んでいく必要があります。



㉑は「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリスト」、㉑は「担当課独自調査」より

③ 施設整備について

- 近年の猛暑を考慮し、令和 2 年度には普通教室への空調設備を整備し、令和 7 年度には特別教室への整備を完了しました。今後も、施設の老朽化対策、照明 LED 化、トイレの洋式化など、子どもの安全・安心で快適な教育環境づくりに向けて、計画的な整備を進めていきます。

②空調設備整備状況	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
普通教室	完了							
特別教室						完了		
体育館（中学校）								完了予定

柱1 持続的な社会の発展に向けて学び続ける人材の育成

施策1 確かな学力を育む教育活動及び情報教育の推進



<施策の方向性>

- 主体的・対話的で深い学びを通して「生きる力」の基盤となる確かな学力の育成を図るとともに、学力調査の結果分析を学習指導や支援に生かすなど、データ等の根拠に基づく取組を推進します。
- 学習者用端末を活用した先進事例の横展開やICTの活用を促進し、子どもの情報活用能力の育成を図るとともに、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取組を推進します。

<主な指標>

- ・ 全国学力・学習状況調査の結果
 - 小 国語 偏差値 50、算数 偏差値 50 (R6) → 全国平均レベル (R12)
 - 中 国語 偏差値 50、数学 偏差値 50 (R6) → 全国平均レベル (R12)
- ・ 授業でICTをほぼ毎日使用する子どもの割合
 - 小 56.5% (R6) → 100% (R12)
 - 中 42.2% (R6) → 100% (R12)

<主な事業>

- ・ 学びづくり推進プロジェクト
- ・ 探究的な学びの基盤となる情報活用能力育成事業

施策2 主体性を育む特色ある教育の推進



<施策の方向性>

- 持続可能な開発のための教育（ESD）及び社会的・職業的自立を目指したキャリア教育の推進に向け、地域や企業、大学等との連携を進め、自ら課題を設定して取り組む教育活動の充実を図ります。

<主な指標>

- ・ 将来の夢や目標をもっている子どもの割合
 - 小 80.2% (R6) → 86.0% (R12)
 - 中 63.4% (R6) → 69.0% (R12)
- ・ 地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思う子どもの割合
 - 小 84.3% (R6) → 90.0% (R12)
 - 中 76.6% (R6) → 82.0% (R12)

<主な事業>

- ・ おかやま未来探究プロジェクト

施策3 健やかな体を育む健康・安全教育の推進



<施策の方向性>

- 生涯にわたって健康な生活を送ることができるよう、子どもの基本的な生活習慣の定着を図るとともに、子どもの体力の向上に向けて、運動の楽しさに触れ、運動習慣の確立につながる取組を進めます。
- 学校内外における子どもの安全確保を図るため、学校、保護者、地域住民が連携して、安全教育（生活安全、交通安全、災害安全）の充実を図ります。

<主な指標>

- ・ 運動、食事、休養および睡眠に気をつけた生活を送っている子どもの割合
 - 小5男子 82.8% (R6) → 88.0% (R12)
 - 小5女子 82.7% (R6) → 88.0% (R12)
 - 中2男子 80.4% (R6) → 86.0% (R12)
 - 中2女子 70.3% (R6) → 76.0% (R12)

<主な事業>

- ・ 運動習慣定着化事業
- ・ 学校保健事業
- ・ 実践的安全教育総合支援事業（学校安全アドバイザー派遣）

柱2 誰一人取り残されない共生社会の実現に向けた教育の推進

施策1 豊かな人間性、社会性を育む教育活動の推進



<施策の方向性>

- 道徳教育等を通じて、思いやりの心や規範意識、自他を尊重する態度を育む教育活動を推進します。
- 豊かな自然や文化・伝統を活用した学びや市民と協働した学びを通じ、岡山市への愛着や誇りを醸成する教育活動を推進します。

<主な指標>

- ・ 協力して取り組むことがうれしいと思う子どもの割合
 - 小 87.9% (R6) → 90.0%以上 (R12)
 - 中 88.0% (R6) → 90.0%以上 (R12)
- ・ 住んでいる地域や岡山市の歴史・伝統・文化や自然に関心がある子どもの割合
 - 小 66.0% (R6) → 71.0% (R12)
 - 中 51.4% (R6) → 60.0% (R12)

<主な事業>

- ・ 心豊かな子どもの育成事業
- ・ 生徒指導関係事業
- ・ 地域の歴史・伝統・文化に親しむ機会の提供

施策2 多様な教育ニーズを踏まえた支援の充実



<施策の方向性>

- すべての子どもが自分のよさや可能性を発揮できるようにするため、障害や不登校、日本語能力、複合的な困難等の多様なニーズを有する子どもに対応し、一人一人の課題に応じたきめ細かな支援を行います。

<主な指標>

- ・ 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる子どもの割合
小 68.6% (R6) → 74.0% (R12)
中 67.1% (R6) → 72.0% (R12)

<主な事業>

- ・ 一人一人に寄り添う居場所づくり推進事業
- ・ 日本語教育推進事業

柱3 地域や家庭で共に学び支えあう社会の実現に向けた教育の推進

施策1 家庭の教育力向上及び地域コミュニティの協働による社会教育の推進



<施策の方向性>

- 学校・家庭・地域が連携・協働することにより、地域社会との様々な関わりを通じて子どもが安心して活動できる居場所づくりや、地域全体で子どもを育む学校づくりを推進します。

<主な指標>

- ・ 子どもを様々な体験活動に参加させている保護者の割合
63.7% (R6) → 70.0% (R12)
- ・ 地域学校協働本部における活動に参加したボランティアの延べ人数
82,192人 (R6) → 108,850人 (R12)

<主な事業>

- ・ 地域と学校協働活動推進事業
- ・ 家庭教育支援事業
- ・ コミュニティスクール岡山の活性化と学校評価の充実

施策2 地域コミュニティの拠点となる社会教育施設の機能強化及び環境整備



<施策の方向性>

- 誰もが生涯を通じて学び続けることができるよう、地域コミュニティの基盤強化に向けて、地域住民の学びの場である社会教育施設の機能強化や環境整備を行うとともに、社会教育人材養成等を通じ、社会教育を推進します。

<主な指標>

- ・ 地域が行う様々な体験活動が子どもの育ちにつながっていると感じる保護者の割合
74.5% (R6) → 80.0% (R12)
- ・ 公民館主催の講座により地域で主体的に活躍する中高生数
5,429人 (R6) → 6,000人 (R12)

<主な事業>

- ・ 公民館ESD・SDGs活動推進事業
- ・ 公民館運営事業（公民館基本方針の推進）

柱4 計画の実効性を高める基盤整備及び教育DXの推進

施策1 学校園の指導体制の充実



<施策の方向性>

- 教員研修の改善や魅力ある教員の確保・資質能力の向上を進めるとともに、指導・運営体制の充実に一体的に推進します。

<主な指標>

- ・ 研修のねらい達成のために、研修が役立ったと感じる教職員の割合
68.5% (R6) → 85.0% (R12)
- ・ 教員が新しい取組を導入したり、提案をしたりすることがよくできる学校の割合
小 25.6% (R6) → 全国平均レベル (R12)
中 10.5% (R6) → 全国平均レベル (R12)

<主な事業>

- ・ 主体的に学び続ける教職員研修事業
- ・ 魅力ある教員の確保事業

施策2 教育DXによる学習指導の充実及び働き方改革の推進



<施策の方向性>

- 安定的なICT環境のもと、対面活動とデジタル活用を融合した教員のICT活用指導力向上を図ります。
- デジタル化やDXによる校務の業務改革・改善に取り組み、教職員の負担軽減・働き方改革を推進します。

<主な指標>

- ・ 授業中にICTを活用して指導できる教員の割合
74.9% (R6) → 100% (R12)
- ・ 1か月の時間外在校等時間が45時間以下の教職員の割合
48.7% (R6) → 100% (R12)

<主な事業>

- ・ 教育DX推進事業
- ・ デジタル採点システムの活用

施策3 安全・安心で快適な教育環境の整備



<施策の方向性>

- 学校施設について、安全・安心を確保しつつ時代のニーズに合った環境を実現するため、教育環境向上と老朽化対策の一体的な整備を推進します。

<主な指標>

- ・ 学校が学びやすい環境づくりや安全などに配慮して施設・設備を整えていると感じる保護者の割合
89.5% (R6) → 90%以上 (R12)

<主な事業>

- ・ 学校空調設備整備事業
- ・ 学校施設長寿命化改修事業

施策4 広報活動の充実及び意見聴取



<施策の方向性>

- 教育委員会や学校の取組を市民に分かりやすく情報発信するとともに、当事者から意見聴取を行い、その意見を取り入れた計画を実施します。

<主な指標>

- ・ 学校は、教育活動の様子や情報をよく分かるように伝えていると感じる保護者の割合
84.6% (R6) → 90%以上 (R12)

<主な事業>

- ・ 広報広聴活動の充実
- ・ 生徒指導関係事業 [再掲]

7 計画の推進と進行管理

(1) 計画の推進

① 縦と横でつながる教育

ア 中学校区を単位とした学校園一貫教育～岡山型一貫教育～

中学校区を単位とした学校園一貫教育～岡山型一貫教育～とは、岡山市で進める中学校区ごとに指導方針を一貫させた教育のことです。教育委員会のリーダーシップの下、同じ中学校区にある学校園の教職員が、中学校区の子どもの実態を踏まえ、目指す子ども像を共有し、発達段階に応じて就学前教育から中学校教育等まで継続的に指導します。

例えば、中学校区で教職員が互いの授業や保育を見合い、効果的な指導法等に関する協議を充実させることで、いわゆる小1プロブレムや中1ギャップといった課題を軽減するとともに、子どもたちが身に付けた学力や豊かな心を将来の生活に生かすことができるようにします。

イ コミュニティ・スクール岡山（岡山市地域協働学校）

コミュニティ・スクールとは、学校運営に地域住民や保護者などの意見を積極的に取り入れ、学校と地域が一体となって子どもを育む「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組みです。岡山市では、「自立に向かって成長する子ども」の育成に向けて、中学校区での目標や方針を共有して取り組みます。

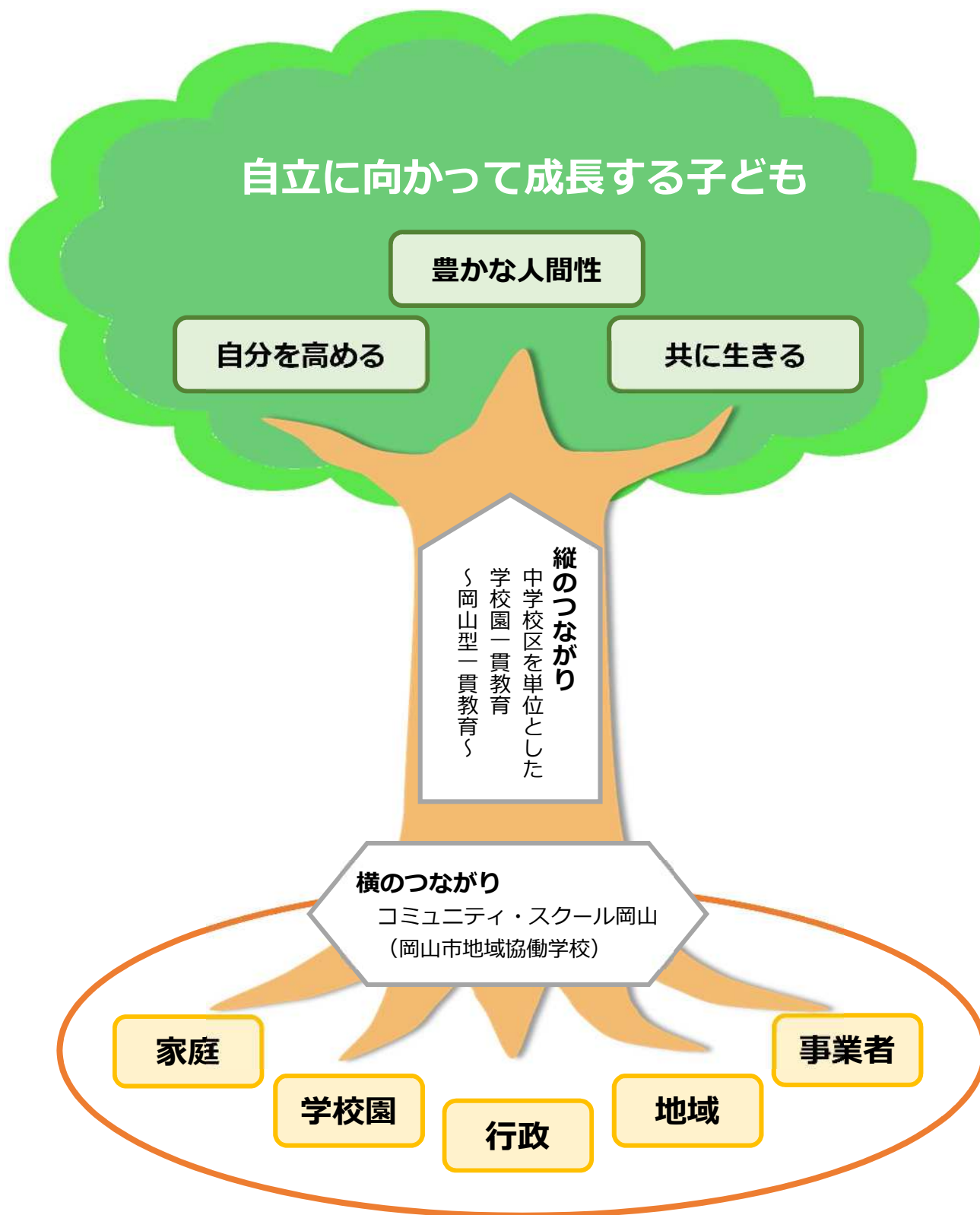
子どもの実態の多様化や学校園が抱える諸課題に対応するため、子どもの学びや成長を地域全体で支える地域学校協働活動をさらに進めるとともに、公民館や図書館、美術館等の社会教育施設や関係団体と連携した取組を進めます。

② 未来へつながる教育（ESDとSDGsの視点を取り入れた計画の推進）

ESDはEducation for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育）の略で、「現代社会における地球規模の課題を自らに関わる問題として主体的に捉え、その解決に向けて自分で考え、行動を起こす力を身に付けるとともに、新たな価値や行動等の変容をもたらすための教育」と定義されています。持続可能な社会の創り手の育成を通じて、SDGsの実現に大きく貢献するものです。計画の推進にあたっては、ESDとSDGsの視点を取り入れた施策を実施していきます。



計画の推進体制（イメージ）



人権尊重の理念に基づく教育の推進

(2) 計画の進行管理

本計画は、今後5年間の本市の教育理念や目指す教育とともに、各政策・施策の方向性の概要を簡潔にまとめたものです。各施策を実現するための事業の具体的な取組については、アクションプランとしてまとめます。

本計画推進のために実施する施策については、以下のP D C Aサイクル【計画(Plan)－実行(Do)－評価(Check)－改善(Action)】を通じた成果の検証と計画の見直しにより、進行管理を行います。

